

薬草文化継承へ連携

揖斐川町と岐阜薬科大が協定

揖斐川町に古来から根付いてきた薬草文化の継承や生産拡大、人材育成などを目的に、町と岐阜薬科大（岐阜市）は23日、包括連携協定を締結した。町が本年度から県などと連携して進める「いび薬草の里づくりプロジェクト」の各事業に同大が協力する。同大が自治体と連携協定を締結するのは初めて。（湯浅裕作）

生産体制確立や人材育成

町は同プロジェクトで、薬草を活用した新たなブランド化や、拠点施設への誘

の指導、生産体制の確立などに対して専門的な知見を提供していく。

町は、伊吹山麓に位置する春日地区を中心に、薬草を栽培、活用してきたが、近年は担い手の高齢化や獣害の影響で文化の継承が課題となり、同プロジェクトを立ち上げた。町と同大は、薬草を生かした地域振興を考える伊吹山薬草サミットや、同大教員の町内での薬草採取や講演など、これまでも交流があり、連携協定を締結した。

町役場で締結式が行われ、原英彰学長と岡部栄一町長が協定書に署名した。原学長は「これまで以上に連携を進め、プロジェクトをさらに前進させたい」、岡部町長は「生産体制が充実し、地域経済の活性化につながるれば」と見据えた。



協定書に署名した原英彰学長（右）と岡部栄一町長
＝揖斐川町役場